

令和8年度 HPVワクチン接種実施要領

1 接種期間

2026年（令和8年）4月1日～2027年（令和9年）3月31日

2 対象者

接種当日に藤沢市に住民登録があり、被接種者本人及び被接種者が16歳未満の場合はその保護者が、HPVワクチン接種の予防効果や副反応などについて理解し、接種に同意する次のいずれかに該当する方

(1) 定期接種対象者

接種期間中に小学6年生から高校1年生相当の女性。

（2010年（平成22年）4月2日～2015年（平成27年）4月1日生まれの女性）

(2) 東日本震災被災者等

上記（1）または（2）に該当する方で、藤沢市に一時避難している（藤沢市に住民登録がない）被災者が接種を希望する場合、藤沢市民と同様に接種を行います。

確認書類 被災証明書等（写しを予診票に添付する）

なお、すでに藤沢市に住民登録のある被災者については、藤沢市民として接種を行います。

3 委託単価

委託単価については、単価表（別紙1）のとおりです。なお、ワクチン代金を含みます。

4 実施内容

(1) 予防接種実施規則及び実施要領に記載された接種方法、回数、接種間隔等を遵守し、実施してください。接種スケジュールについては別紙2のとおりです。

接種間隔の「1月（ひとつき）」については、暦月とされているので、翌月の前日までを1月（ひとつき）と数えます。

例1) 「〇か月以上の間隔をあける」

→〇か月後の同日の前日に〇か月経過したと考えるため、〇か月後の同日から接種できます。もし10月1日に接種した2か月後に接種する場合、12月1日から接種できます。

例2) 「〇か月後に同日となる日が存在しない場合」

→〇か月最終日の翌日（つまり1日）から接種できます。もし10月31日に接種した1か月後に接種する場合、11月には31日がないため、11月最終日の翌日、12月1日から接種できます。

※「月4週」や間隔を短くしてしまった場合は定期接種対象外となり、健康被害が生じた場合は、健康被害救済の対象にならない可能性があります。

※体調不良等により、接種間隔を大きく開けて接種した場合でも、対象年齢の間に接種した方は、公費助成の対象とします。

(2) 接種の間隔をおいている間に、明らかな発熱を呈していること又は急性の疾患にかかっていること等のやむを得ない事情により、予防接種を受けることができなかった方については、その要因が解消された後、対象年齢内に速やかに接種したときは、それぞれの接種の間隔をおいたものとみなします。

また、長期療養を必要とする疾病にかかった方等の定期予防接種に関する特例措置がありますので、予防接種実施規則及び実施要領をご確認ください。

(3) 説明 予防接種の効果、予防接種後の副反応並びに健康被害救済について、被接種者及び被

接種者が16歳未満の場合はその保護者がその内容を理解できるよう、適切な説明を行ってください。

- (4) 接種意思の確認 被接種者及び被接種者が16歳未満の場合はその保護者の接種意思の確認を行ってください。また、被接種者が16歳未満の場合、保護者の同伴については以下のとおりとします。
 - ア 接種日に被接種者が13歳未満の方（中学1年生の方で誕生日を迎えていない方含む。）は保護者が同伴していない場合は接種できませんので、必ず同伴の確認をしてください。
 - イ 接種日に被接種者が13歳以上から16歳未満の方は、保護者の同伴を原則としますが、同伴しない場合には、HPVワクチン接種予診票を事前にお渡しのうえ、保護者が予診票1枚目「HPVワクチンの接種を受けるに当たっての説明書」を読み、理解したうえで予診票2箇所（保護者自署欄）により確認できた場合には、同伴を要しないものとします。
- (5) 予診 医師が、問診、検温、視診、聴診等の診察を接種前に行い、予防接種を受けることが適当でない方、または予防接種を行うに際して注意を要する方に該当するか否かを確認してください。
- (6) 予防接種不相当者 被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行わないでください。
 - ① 接種当日に、明らかな発熱を呈している方
 - ② 重篤な急性疾患にかかっている方
 - ③ 本接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
 - ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
 - ⑤ 妊娠している可能性がある方
 - ⑥ 接種日時時点で13歳未満の者で、保護者の同伴がない方
 - ⑦ 上記①～⑥に該当する方の他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方
- (7) 予防接種要注意者 健康状態及び体質を勘案し、次のいずれかに該当すると認められる場合には、注意して接種を行ってください。
 - ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障がいなどの基礎疾患がある方
 - ② 予防接種を受けた後に、2日以内に発熱のみられた方
 - ③ 過去にけいれんの既往がある方
 - ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
 - ⑤ 血小板減少症や凝固障害を有する方
- (8) 接種後の対応 血管迷走神経反射として失神があらわれることがあるので、失神による転倒等を防止するため、注射後の移動の際には、保護者又は医療従事者が腕を持つなどして付き添うようにし、接種後30分程度体重を預けられるような場所で座らせるなどした上で、なるべく立ち上がらないように指導し、被接種者の状態を観察できるようにしてください。また、副反応に対応するために必要な体制を整えてください。
- (9) その他、ワクチンの用法・用量等を遵守してください。また、接種医療機関及び接種施設には、予防接種直後の即時性全身反応等の発生に対応するために必要な薬品及び用具を備え、又は携行してください。
- (10) 被接種者及び被接種者が16歳未満の場合はその保護者には別紙3、4を用いて、副反応を含めた説明を行ってください。また接種者には別紙5を配布してください。
- (11) 交互接種について 同じ種類のワクチンで接種を完了することを原則とします。ただし、2価または4価HPVワクチンで接種を開始した者が、9価HPVワクチンで残りの接種を行う場合は、接種する医療機関において、交互接種に関する十分な説明を行った上で実施する

こととします。なお、令和8年度から2価及び4価HPVワクチンは定期予防接種の対象ではなくなりました。

5 他の予防接種との関係

他のワクチンとの接種間隔については国が定める「予防接種実施要領」のとおりとします。

6 報告書の提出期日について

(1) 月末までに実施した分を翌月10日(当日が、土日祝日の場合は前開庁日)必着で、次の書類を健康づくり課に提出してください。支払いは、毎月の提出期日から約30日後になります。

① HPVワクチン接種完了報告書(兼口座振込依頼書)(別紙6-1、記載例は別紙6-2)

② 予診票(藤沢市提出用)(別紙7)

ただし、各月の提出期日を過ぎた報告書等については、藤沢市医師会に提出してください。

※報告書に記載する医療機関名、氏名は指定医療機関名として事前に提出されているものと合致させてください。

※書き誤りがあった場合は、新しい用紙に書き直すか二重線で消し、訂正してください。修正液等は使わないでください。

※通帳には、健康づくり課の課名(カナ略称)が印字され振り込まれます。健康づくり課で、他の振込みがある場合には合算して振り込まれます。

※報告件数や請求額の確認用に、完了報告書の内容をお手元に控えてください。

(2) 提出先は次のとおりです。

提出先 〒251-0022 藤沢市鵜沼2131番地の1

藤沢市 健康づくり課(保健所・南保健センター3階)

提出受付時間 8:30~17:00(土日祝日を除く)

(郵送で提出する場合は、適切な方法(記録が確認できるなど)で発送してください。)

※ただし、各月の提出期日を過ぎた報告書等については、藤沢市医師会に提出してください。

7 ワクチンについて

ワクチンの供給は、直接、医薬品卸売業者等から調達してください。

(2価及び4価HPVワクチンは令和8年度から定期予防接種の対象ではなくなりました)

8 予診票について

(1) 母子手帳を持参した際は記入するとともに「接種済証」(別紙8)を保護者または本人にお渡しください。お渡しいただく際に、2回目及び3回目の接種時期を伝えるとともに接種済証を持参するようお伝えください。

(2) 予診のみの場合は、「予診済証」(別紙9、10)を保護者または本人にお渡しください。予診票が不足した場合は、健康づくり課に早めに請求してください。

9 健康被害

予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度が適用されます。

10 副反応の報告

(1) 接種後に異常反応を疑う症状がみられた場合は、速やかに応急処置を行ってください。

(2) 予防接種の接種後「予防接種後副反応疑い報告書報告基準」に記載されている症状を診断し

た場合は、速やかに電子報告システム（報告受付サイトURL：<https://www.pmda.go.jp/safety/reports/hcp/0002.html>）にて独立行政法人医薬品医療機器総合機構へ報告してください。電子的な報告が困難な場合は、予防接種後副反応疑い報告書、若しくは国立感染症研究所のホームページからダウンロードできる予防接種後副反応疑い報告入力アプリにて作成した様式を使用し、FAXにて報告してください。（FAX番号：0120-176-146）

- (3) (2) の報告にあわせて、藤沢市健康づくり課にも同様にFAXにて報告してください。
(健康づくり課 FAX番号：0466-28-2280)

1.1 予防接種時の間違い接種及び事故の報告

- (1) 受託医は、実施した予防接種において、万が一、間違い接種や事故が発生した場合は、健康づくり課に速やかに電話で報告し、併せて「予防接種事故報告書」を提出してください。
なお、委託料の支払いにかかわらず、被接種者が定期予防接種を受けることを目的に来院し、実施したものについては報告の対象とします。
- (2) 受託医は、発生した間違い接種や事故について、被接種者及び保護者に対し、十分な説明を行ってください。
- (3) 健康づくり課において間違い接種等を把握した場合、受託医に状況の確認をすることがありますので、協力してください。
- (4) 間違い接種や事故の事例は、本市が厚生労働省及び藤沢市予防接種運営協議会に報告を行います。

1.2 個人情報の守秘義務

業務に従事している方または従事していた方が、個人の秘密に関する管理情報を提供し、または漏らした場合は、個人情報の保護に関する法律による罰則を適用します。

以上

令和8年度 HPVワクチン接種単価表

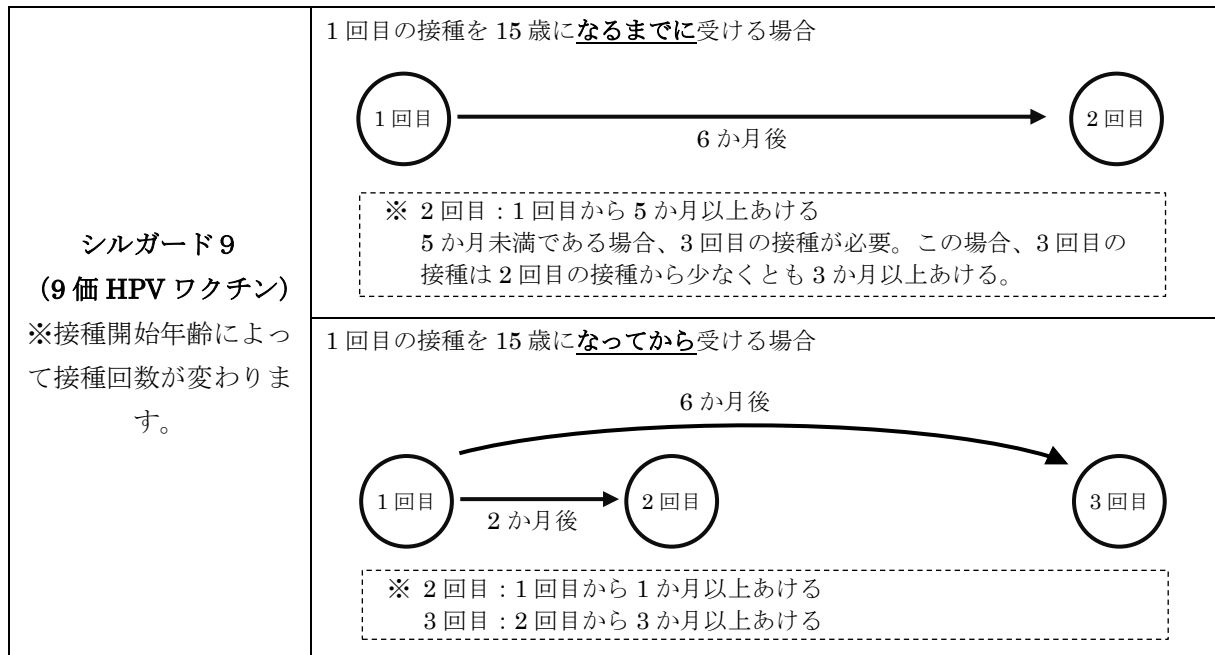
	単価金額 (税込み)	備考
9価HPVワクチン	30,019円 (消費税及び地方消費税2,729円を含む)	4月～5月 実施分
予診のみ	3,201円 (消費税及び地方消費税291円を含む)	
9価HPVワクチン	30,041円 (消費税及び地方消費税2,731円を含む)	6月～3月 実施分
予診のみ	3,223円 (消費税及び地方消費税293円を含む)	

消費税及び地方消費税については、予防接種を実施した時期の税率を適用する。
接種、予診のみいずれの場合も自己負担金は0円とする。
※令和8年度から、2価と4価のHPVワクチンは定期接種の対象外となりました。

別紙 2

【標準的な接種スケジュール】

標準的な接種スケジュールで接種できない場合※の方法で接種することも可能です(委託料の支払い対象です)。



接種間隔の「1月(ひとつき)」については、暦月とされているので、翌月の前日までを1月(ひとつき)と数えます。

例1)「○か月以上の間隔をあける」

→○か月後の同日の前日に○か月经過したと考えるため、○か月後の同日から接種できます。もし10月1日に接種した2か月後に接種する場合、12月1日から接種できます。

例2)「○か月後に同日となる日が存在しない場合」

→○か月最終日の翌日(つまり1日)から接種できます。もし10月31日に接種した1か月後に接種する場合、11月には31日がないため、11月最終日の翌日、12月1日から接種できます。

がい よう ばん
概要版

詳しく知りたい方向けの詳細版もあります。

小学校6年 ~ **高校1年^{相当}** の女の子と
保護者の方へ大切なお知らせ



HPVワクチンについて知ってください
～あなたと関係のある“がん”があります～

ウイルス感染でおこる子宮けいがん

詳細版
P2~3

「がんってたばこでなるんでしょ？」

「オトナがなるものだから私は関係ない」って思っていないですか？

実はウイルスの感染がきっかけでおこる“がん”もあります。その1つが子宮けいがんです。

HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです*。

感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、

一部の人でがんになってしまうことがあります。

現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、

感染を防ぐことががんにならないための手段です。

*HPVは一度でも性的接触せつしよくの経験があればだれでも感染する可能性があります。



女性の多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)に
“一生に一度は感染する”といわれる

がんになる場合も

感染を防ぐことが
がんにならないための手段

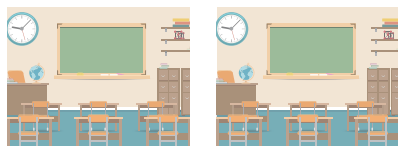
<何人くらいが子宮けいがんになるの?>

日本では毎年、約1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。
患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療ちりょうで子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり125人

2クラスに1人くらい

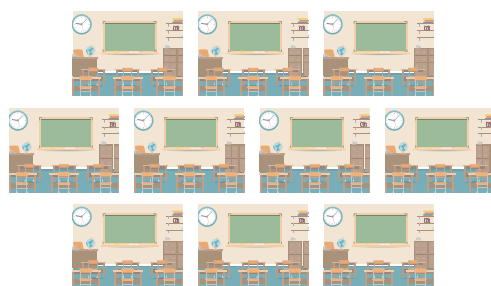


1クラス約35人の女子クラスとして換算かんさん

<子宮けいがんて亡くなる人>

1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



HPVワクチンの効果

詳細版
P4

HPVの中には子宮けいがんをおこしやすい種類(型)のものがいます。

HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。

現在日本において受けられるワクチンは、防ぐことができるHPVの種類によって、

2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、

9価ワクチン(シルガード®9)*の3種類あります。*2023年4月から、シルガード®9も公費で受けられるようになりました。

サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮けいがんをおこしやすい種類である

HPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮けいがんの原因の50~70%を防ぎます*1。

シルガード®9は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類**2のHPVの感染も防ぐため、子宮けいがんの原因の80~90%を防ぎます*3。

また、HPVワクチンで、がんになる手前の状態(前がん病変)が減るとともに、

がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。

※1-3 HPV16型と18型が子宮けいがんの原因の50~70%を占め(※1)、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮けいがんの原因の80~90%を占めます(※3)。

※2 HPV31型、33型、45型、52型、58型

HPVワクチンのリスク

詳細版
P5

筋肉注射という方法で注射します。接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。

ワクチンの接種を受けた後に、まれですが、重い症状*1が起こることがあります。

また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動**2といった多様な症状が報告されています。

ワクチンが原因となったものかどうか分からないものをふくめて、

接種後に重篤な症状*3として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり約2~5人**4です。

接種するワクチンや年齢によって、合計2回または3回接種しますが、

接種した際に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。

接種後に気になる症状が出たときは、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください**5。

※1 重いアレルギー症状(呼吸困難やじんましんなど)や神経系の症状(手足の力が入りにくい、頭痛・嘔吐・意識の低下)

※2 動かさずとも勝手に体の一部が勝手に動いてしまうこと

※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれています。報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。

※4 サーバリックス®およびガーダシル®は約5人、シルガード®9は約2人

※5 HPVワクチン接種後に生じた症状の診療を行う協力医療機関をお住まいの都道府県ごとに設置しています。

子宮けいがんで苦しまないために、できることが2つあります

詳細版
P7

① 今からできること

日本では、小学校6年~高校1年相当の女の子を対象に、

子宮けいがんの原因となるHPVの感染を防ぐ

ワクチンの接種を提供しています。

HPVの感染を防ぐことで、

将来の子宮けいがんを予防できると

期待されています。

カナダ、オーストラリアなどでは

女の子の8割以上がワクチンを受けています。



② 20歳になったらできること

HPVワクチンを

受けていても、

子宮けいがん検診は

必要です。

定期的に

検診を受けることが

大切です。



HPVワクチンについて知ってください

すべてのワクチンの接種には、効果とリスクとがあります。
 まずは、子宮けいがん^{けい}とHPVワクチン、子宮けいがん^{けんしん}検診について知ってください。
 周りの人とお話ししてみたり、かかりつけ医などに相談することもできます。

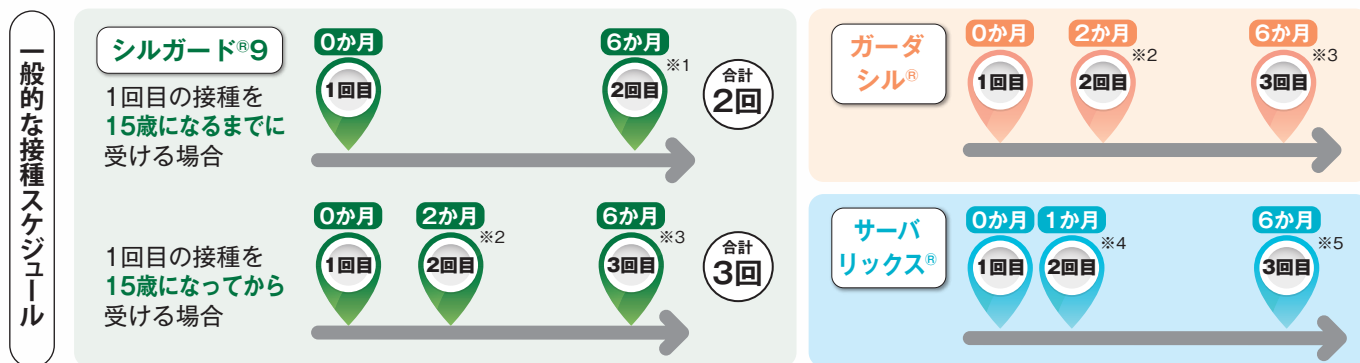


HPVワクチンを受けることを希望する場合は

詳細版
P4.8

小学校6年～高校1年相当の女の子は、HPVワクチンを公費で受けられます*。
 病院や診療所で相談し、どれか1種類を接種します。ワクチンの種類や接種する年齢によって、
 接種の回数や間隔が少し異なりますが、いずれのワクチンも、半年～1年の間に決められた回数、接種します。
 接種には、保護者の方の同意が必要です。

*公費の補助がない場合の接種費用は、サーバリックス®およびガーダシル®では3回接種で4～5万円、シルガード®9では3回接種で8～10万円、2回接種で5～7万円です。



3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

- *1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。
- *2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(*2)、3回目は2回目から3か月以上(*3)あけます。
- *4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(*4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(*5)あけます。

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は

このご案内の内容をもっと詳しく説明している
 「HPVワクチンについて知ってください<詳細版>」や、
 其他のご案内をご覧ください。

厚労省 HPV



HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)については、こちらをご確認ください。

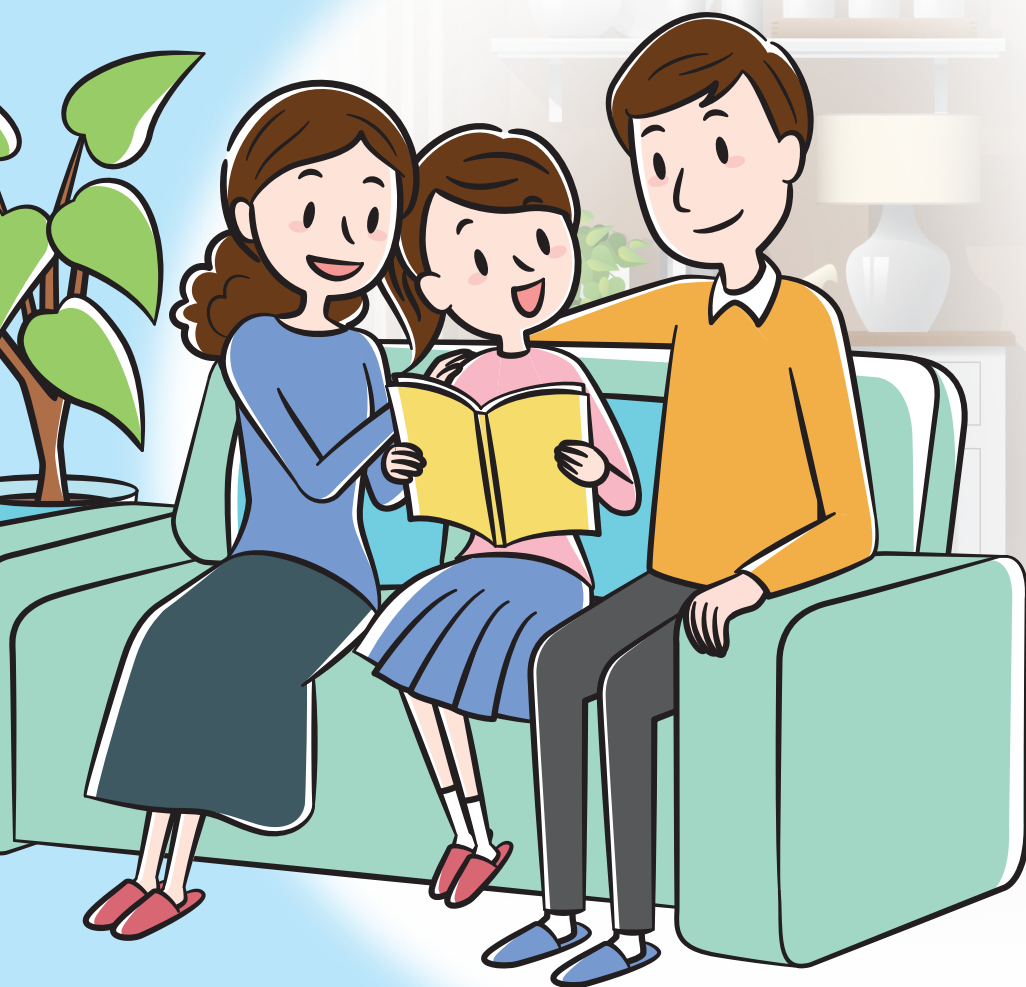


お問合せ先

しょうさいばん
詳細版

お子様にもわかりやすい**概要版**もあります。

小学校6年 ~ **高校1年^{相当}** の女の子と
保護者の方へ大切なお知らせ



目次

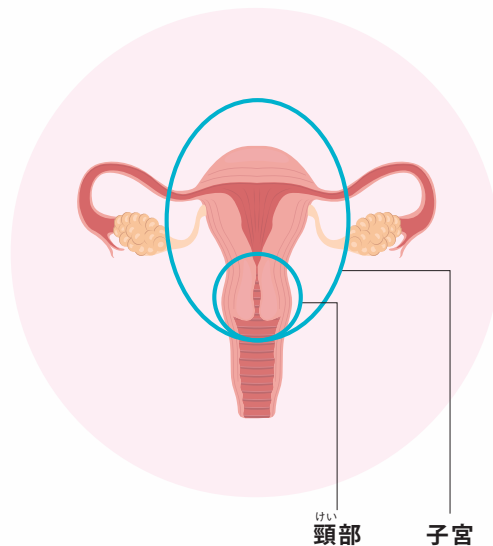
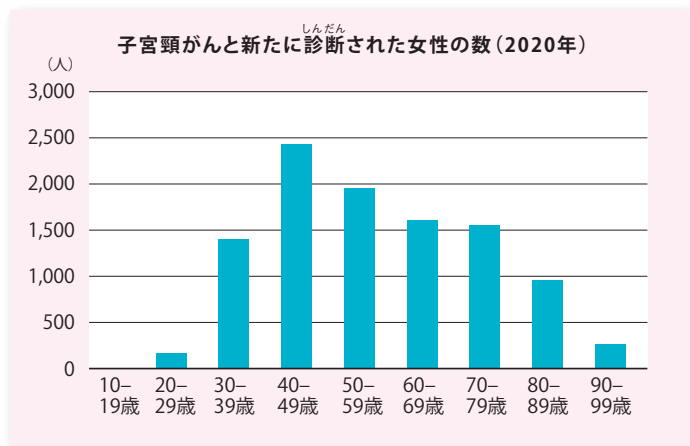
- ・子宮頸がんの現状 ————— 2
- ・子宮頸がんにかかる仕組み ————— 3
- ・子宮頸がんの治療 ————— 3
- ・HPVワクチンの接種について ————— 4
- ・HPVワクチンの効果 ————— 4
- ・HPVワクチンのリスク ————— 5
- ・安全性を定期的に確認しています ————— 6
- ・予防接種健康被害救済制度について ————— 6
- ・HPVワクチン接種の注意点 ————— 6
- ・HPVワクチンのはじまりと世界での状況 ————— 7
- ・HPVワクチンと子宮頸がん検診 ————— 7
- ・子宮頸がん検診について ————— 7
- ・HPVワクチンについて知ってください ————— 8

HPVワクチンについて知ってください
～あなたと関係のある“がん”があります～

子宮頸がんの現状

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。
 子宮頸がんは、若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがんです。

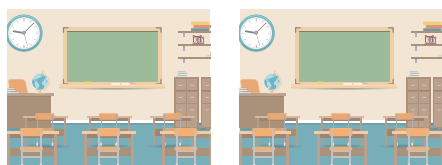
日本では毎年、約1万人の女性がかかる病気で、さらに毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。
 患者さんは20歳代から増え始めて、
 30歳代までにかんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。



<一生のうち子宮頸がんになる人>

1万人あたり125人

2クラスに1人くらい

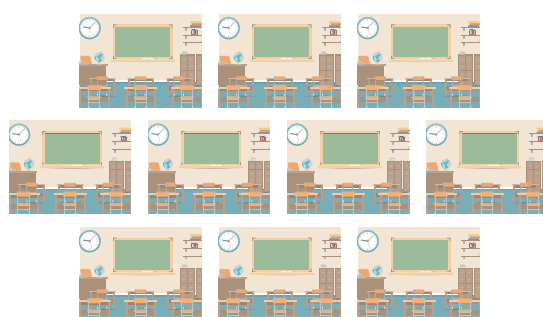


1クラス約35人の女子クラスとして換算

<子宮頸がんで亡くなる人>

1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



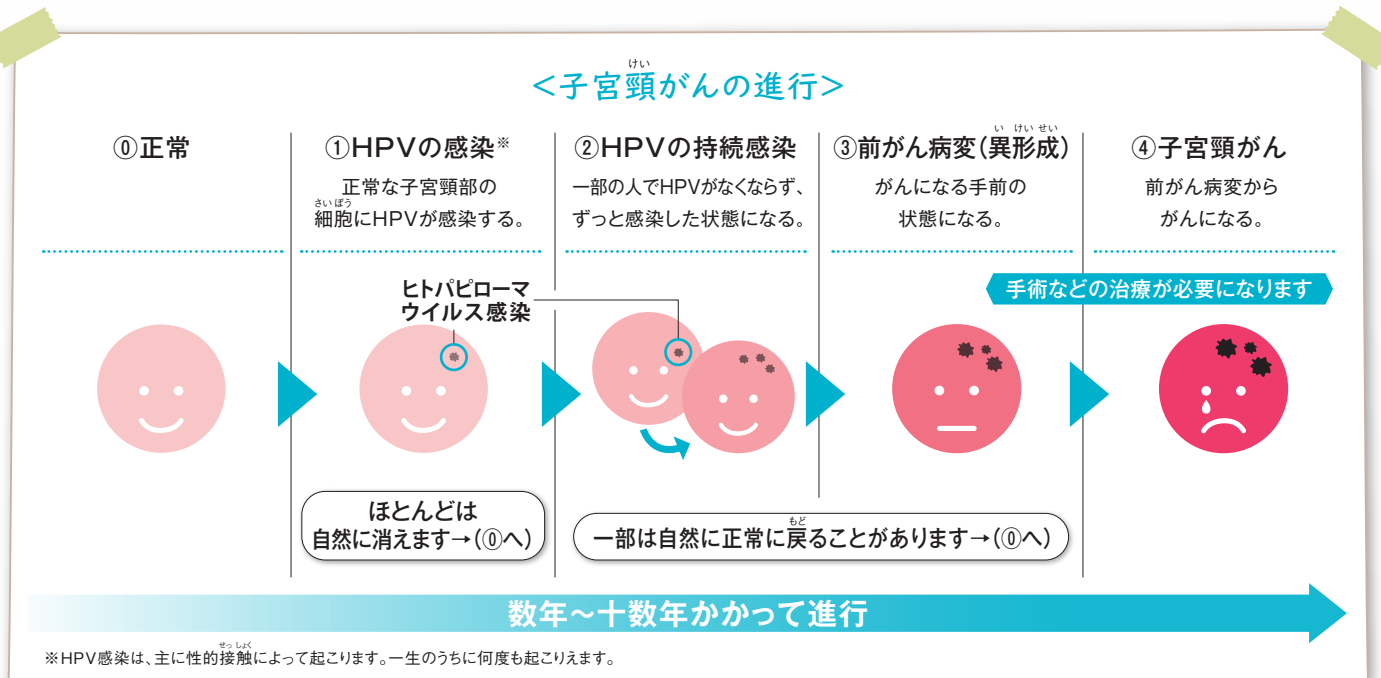
つまりこれってどのくらい？



子宮頸がんにかかる仕組み

子宮頸がんの原因は、長らく明らかになっていませんでしたが、1982年、ドイツのハラルド・ツァ・ハウゼン氏により、子宮頸がんのほとんどがヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染で生じることが発見されました。同氏は、この功績により2008年ノーベル医学生理学賞を授与されました。

HPVには200種類以上のタイプ(遺伝子型)があり、子宮頸がんの原因となるタイプが少なくとも15種類あることがわかっています。HPVに感染しても、すぐにがんになるわけではなく、いくつかの段階があります。



HPVは、女性の多くが“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです。感染しても、ほとんどの人ではウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。現在、感染した後どのような人ががんになるのかわかっていないため、感染を防ぐことががんにならないための手段です。

子宮頸がんの治療

子宮頸がんは、早期に発見し手術等の治療を受ければ、多くの場合、命を落とさず治すことができる病気です。

進んだ前がん病変(異形成)や子宮頸がんの段階で見つかったら、手術が必要になります。

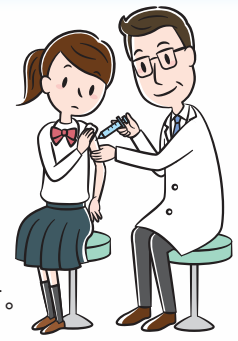
病状によって手術の方法は異なりますが、子宮の一部を切り取ることで、妊娠したときに早産のリスクが高まったり、子宮を失うことで妊娠できなくなったりすることがあります。



女性の多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)に“一生に一度は感染する”といわれる

がんになる場合も

感染を防ぐことががんにならないための手段

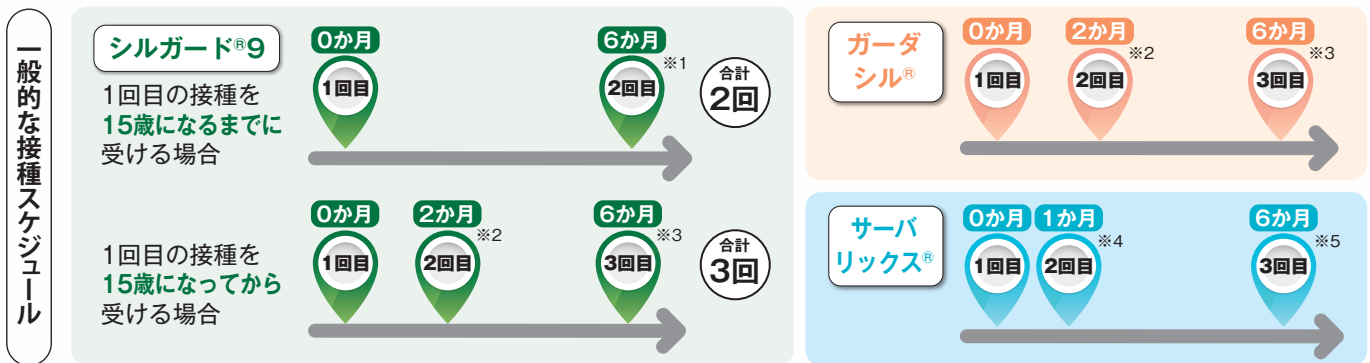


HPVワクチンの接種について

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐワクチン(HPVワクチン)の接種を提供しています。対象者は公費により接種を受けることができます。

現在日本において公費で受けられるHPVワクチンは、防ぐことができるHPVの種類(型)によって、2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、9価ワクチン(シルガード®9)*の3種類あります。一定の間隔をあけて、同じワクチンを合計2回または3回接種します。接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。どのワクチンを接種するかは、接種する医療機関に相談してください。

*2023年4月から、シルガード®9も公費で受けられるようになりました。



3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2-3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

※4-5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(※5)あけます。

HPVワクチンの効果

サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮頸がんをおこしやすい種類(型)であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます※1。

シルガード®9は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類※2のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます※3。

※1-3 HPV16型と18型が子宮頸がんの原因の50～70%を占め(※1)、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮頸がんの原因の80～90%を占めます(※3)。

また、子宮頸がんそのものの予防効果については引き続き評価が行われている状況ですが、これまでのサーバリックス®およびガーダシル®での知見を踏まえると、子宮頸がんに対する発症予防効果が期待できます(※3)。

※2 HPV31型、33型、45型、52型、58型

公費で受けられるHPVワクチンの接種により、

感染予防効果を示す抗体は少なくとも12年維持される可能性があることが、これまでの研究でわかっています※4。

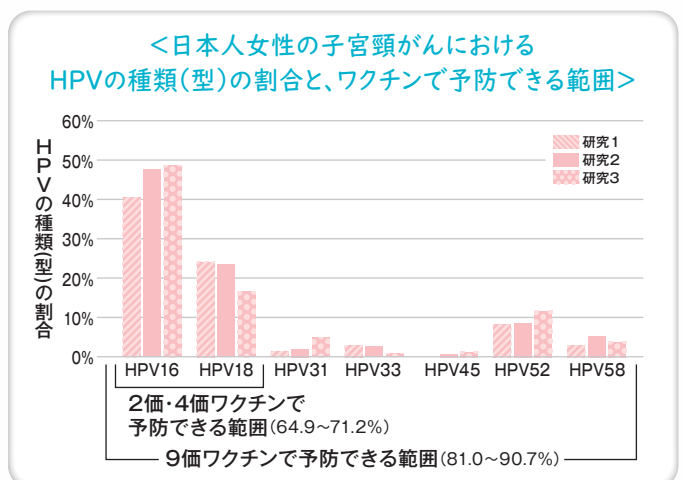
※4 ワクチンの誕生(2006年)以降、期待される効果について研究が続けられています。

海外や日本で行われた疫学調査(集団を対象として病気の発生などを調べる調査)では、HPVワクチンを導入することにより、子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されています。

また、接種が進んでいる一部の国では、子宮頸がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。HPVワクチンの接種を1万人が受けると、受けなければ子宮頸がんになっていた約70人※5ががんにならず、約20人※6の命が助かる、と試算されています。

※5 59～86人

※6 14～21人



「9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン ファクトシート」(国立感染症研究所)をもとに作成
 研究1: Onuki, M., et al. (2009). Cancer Sci 100(7): 1312-1316.
 研究2: Azuma, Y., et al. (2014). Jpn J Clin Oncol 44(10): 910-917.
 研究3: Sakamoto, J., et al. (2018). Papillomavirus Res 6: 46-51.

HPVワクチンのリスク

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。

まれですが、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)^{※1}が起こることがあります。

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス [®])	4価ワクチン(ガーダシル [®])	9価ワクチン(シルガード [®] 9)
50%以上	疼痛 [*] 、発赤 [*] 、腫脹 [*] 、疲労	疼痛 [*]	疼痛 [*]
10~50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑 [*] 、腫脹 [*]	腫脹 [*] 、紅斑 [*] 、頭痛
1~10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感 [*] 、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感 [*] 、発熱、疲労、内出血 [*] など
1%未満	知覚異常 [*] 、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結 [*] 、出血 [*] 、不快感 [*] 、倦怠感 [*] など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血 [*] 、血腫 [*] 、倦怠感、硬結 [*] など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス[®]添付文書(第1版)、ガーダシル[®]添付文書(第3版)、シルガード[®]9添付文書(第1版)より改編

^{*}接種した部位の症状

因果関係があるかどうかわからないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて、

HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、

接種1万人あたり、サーバリックス[®]またはガーダシル[®]では約9人、シルガード[®]9では約3人です^{※2}。

このうち、報告した医師や企業が重篤^{※3}と判断した人は、

接種1万人あたり、サーバリックス[®]またはガーダシル[®]では約5人、シルガード[®]9では約2人です^{※2}。

^{※1} 重いアレルギー症状:呼吸困難やじんましん等(アナフィラキシー)、神経系の症状:手足の力が入りにくい(ギラン・バレー症候群)、頭痛・嘔吐・意識低下(急性散在性脳脊髄炎(ADEM))等

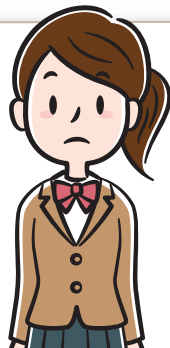
^{※2} HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があった数(副反応疑い報告制度における報告数)は、企業からの報告では販売開始から、医療機関からの報告では平成22(2010)年11月26日から、令和6(2024)年9月末時点までの報告の合計。

出荷数量より推計した接種者数(サーバリックス[®]およびガーダシル[®]は422万人、シルガード[®]9は177.2万人)を分母として1万人あたりの頻度を算出。

^{※3} 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれていますが、報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。

HPVワクチン接種後に生じた症状の報告頻度

サーバリックス[®]またはガーダシル[®]
1万人あたり約9人^{※2}
シルガード[®]9
1万人あたり約3人^{※2}



HPVワクチン接種後に生じた症状(重篤)の報告頻度

サーバリックス[®]またはガーダシル[®]
1万人あたり約5人^{※2}
シルガード[®]9
1万人あたり約2人^{※2}

<痛みやしびれ、動かしにくさ、不随意運動について>

- ワクチンの接種を受けた後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動(動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと)などを中心とする多様な症状^{しょうじょう}が起きたことが報告されています。
- この症状は専門家によれば「機能的な身体症状」(何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その身体症状に合致する異常所見が見つからない状態)であると考えられています。
- 症状としては、①知覚に関する症状(頭や腰、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に対する過敏^{かびん}など)、②運動に関する症状(脱力^{だつりょく}、歩行困難、不随意運動など)、③自律神経等に関する症状(倦怠感、めまい、睡眠障害、月経異常など)、④認知機能に関する症状(記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など)などいろいろな症状が報告されています。
- 「HPVワクチン接種後の局所の疼痛や不安等が機能的な身体症状をおこすきっかけとなったことは否定できないが、接種後1か月以上経過してから発症している人は、接種との因果関係を疑う根拠に乏しい」と専門家によって評価されています。
- また、同年代のHPVワクチン接種歴のない方においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在することが明らかとなっています。
- このような「多様な症状」の報告を受け、様々な調査研究が行われていますが、「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていません。
- ワクチンの接種を受けた後や、けがの後などに原因不明の痛みが続いたことがある方は、これらの状態が起きる可能性が高いと考えられているため、接種については医師とよく相談してください。

安全性を定期的に確認しています

接種が原因と証明されていなくても、
接種後に起こった健康状態の異常について報告された場合は、
審議会(ワクチンに関する専門家の会議)^{しんぎかい}※において一定期間ごとに、
報告された症状^{しょうじょう}をもとに、
ワクチンの安全性^{けいぞく}を継続して確認しています。

※厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会 等



予防接種健康被害救済制度について

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害^{ひがひ}を生じる場合があります。

HPVワクチンに限らず、日本で承認されているすべてのワクチンについて、ワクチン接種によって、
医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、
法律に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)が受けられます。

その際、「厳密な医学的な因果関係までは必要とせず、
接種後の症状^{しょうじょう}が予防接種によって起こることを否定できない場合も救済の対象とする」という
日本の従来からの救済制度の基本的な考え方にそって、救済の審査を実施しています。
令和6(2024)年3月末までに救済制度の対象となった方^{しんきき}※1は、審査された613人中、366人^{じっし}※2です。

予防接種による健康被害についてのご相談は、お住まいの市町村の予防接種担当部門にお問い合わせください。

※1 ワクチン接種に伴って一般的に起こりえる過敏症^{いっぱんてき}など機能性身体症状^{かびんしょう}以外の認定者もふくんだ人数

※2 予防接種法に基づく救済の対象者については、審査した計73人中、45人
独立行政法人医薬品医療機器総合機構法(PMDA法)に基づく救済の対象者については、審査した計540人中、321人です。

HPVワクチン接種の注意点

- 筋肉注射という方法で接種しますが、注射針^{しゅうしつ}を刺した直後から、
強い痛みやしびれを感じた場合はすぐに医師にお伝えください。
- 痛みや緊張等^{きんちやう}によって接種直後に一時的に失神や立ちくらみ等が生じることがあります。
接種後30分程度は安静にしてください。
- 接種を受けた日は、はげしい運動^{うご}は控えましょう。
- 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を行った医療機関などの医師にご相談ください。
HPVワクチン接種後に生じた症状の診療^{しやうじょう}を行う協力医療機関をお住まいの都道府県ごとに設置しています。
協力医療機関の受診^{じゆしん}は、接種を行った医師またはかかりつけの医師にご相談ください。
- HPVワクチンは、合計2回または3回接種しますが、接種した際に気になる症状が現れた場合は、
それ以降の接種をやめることができます。



HPVワクチンのはじまりと世界での状況

HPVワクチンは、2006年に欧米で生まれ、使われ始めました。
日本では、2009年10月にワクチンとして承認され、接種が始まりました。

世界保健機関(WHO)が接種を推奨しており、
2024年1月時点ではWHO加盟国194か国のうち
137か国で公的な予防接種が行われています。
カナダ、オーストラリアなどの接種率は8割以上です。

日本での接種者は近年徐々に増えています。
日本の最新の接種状況は厚生労働省ホームページからご確認いただけます。

厚生労働省「定期の予防接種実施者数」 <https://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/other/5.html> →

<HPVワクチンを接種した
女の子の割合(2022年)>

アメリカ	63.8%
カナダ	86.0%
イギリス	67.3%
イタリア	38.8%
ドイツ	53.4%
フランス	41.5%
オーストラリア	80.3%

※出典:WHO HPV vaccination coverage



130か国以上で
公的接種

カナダ、オーストラリアなどでは
接種率8割以上

日本での接種率は
徐々に上昇中

HPVワクチンと子宮頸がん検診

子宮頸がんで苦しまないために、私たちができることは、
HPVワクチンの接種と子宮頸がん検診の2つです。

ポイント

1

HPVワクチンで
HPVの感染を予防



ポイント

2

子宮頸がん検診で
がんを早く見つけて治療

なるほど!



子宮頸がん検診について

20歳になったら、子宮頸がんを早期発見するため、
子宮頸がん検診を定期的に行うことが重要です。

※HPVワクチンで防げない種類(型)のHPVもあります。

子宮頸がん検診では、前がん病変(異形成)や
子宮頸がんがないかを検査します。

継続して安心!



ワクチンを接種していても、していなくても、20歳になったら
必ず、定期的に子宮頸がん検診を受けてください。

HPVワクチンについて知ってください

すべてのワクチンの接種には、効果とリスクとがあります。

まずは、子宮頸がん^{けいがん}とHPVワクチン、子宮頸がん検診^{けんしん}について知ってください。

周りの人とお話ししてみたり、かかりつけ医などに相談することもできます。



HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

→ 接種を行った医師・かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関
※協力医療機関の受診については、接種を行った医師またはかかりつけの医師にご相談ください

不安や疑問があるとき、日常生活や学校生活で困ったことがあるとき

→ お住まいの都道府県に設置された相談窓口（衛生部局、教育部局）

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

→ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

予防接種による健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき

→ お住まいの市町村の予防接種担当部門

厚生労働省のホームページでは、
HPVワクチンに関する情報をご案内しています。

厚労省 HPV

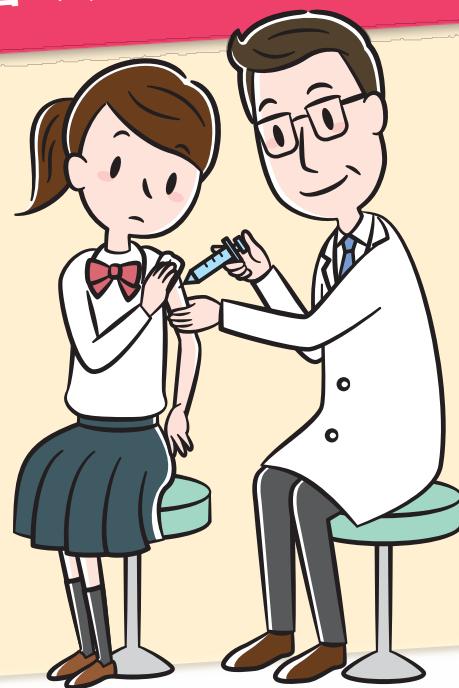


HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)については、こちらをご確認ください。



お問合せ先

ワクチンを受けた後は、 体調に変化がないか 十分に注意してください。



もしも、気になる体調変化があった場合は、
このリーフレットを参考に、医師に相談してください。

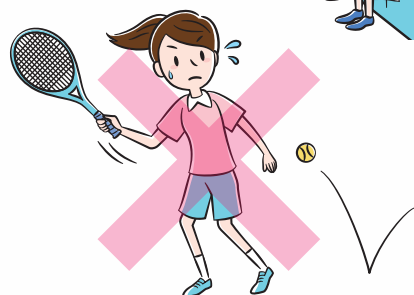
当日

ワクチンを受けた後30分ほどは 座って様子を見てください。*

※ワクチンを受けることに対する緊張や、強い痛みをきっかけに、
立ちくらみがしたり、血の気が引いて、時に気を失うことがあります。
血管迷走神経反射という誰にでも起こる可能性がある反応で、
通常、横になって休めば自然に回復します。
倒れてケガをしないように
背もたれのあるイスに座って休みましょう。



ワクチンを受けた日は はげしい運動はやめてください。



数日後 から 数週間後

気になる症状が出たときは すぐにお医者さんや周りの大人に相談してください。

具体的な症状を裏面に掲載していますので、参考にしてください。

ワクチンを受けても、子宮けいがん検診は必要です

ワクチンを受けた人も、20歳をすぎたら2年に1回、必ず検診を受けてください。
ワクチンで防げないタイプのHPV(ヒトパピローマウイルス)もあります。

以下のような^{しょうじょう}症状が出たら、お医者さんや周りの大人にワクチンを受けたことを伝えて、相談してください。

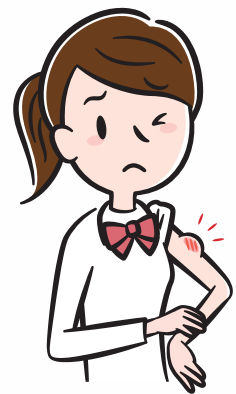
- 注射の針を刺したときに強い痛みやしびれを感じた
- ワクチンを受けた後に、注射した部分以外のところで痛みや手足のしびれ・ふるえなど気になる症状や体の変化がある



起こるかもしれない体の変化

多くの人に起こる症状※	<ul style="list-style-type: none"> ● 注射した部分の痛み、腫れ、赤み ● 疲れた感じ、頭痛、腹痛、筋肉や関節の痛み
その他の症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 注射した部分のかゆみ、出血、不快感 ● 発熱、めまい ● 発しん、じんましん ● 緊張や不安、痛みなどをきっかけに気を失う

※接種を受けた人の10%以上に起こった症状



まれですが、起こるかもしれない重い症状

- 呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー（アナフィラキシー）
- 手足の力が入りにくいなどの症状（ギラン・バレー症候群）
- 頭痛、嘔吐、意識の低下などの症状（急性散在性脳脊髄炎（ADEM））

<痛みやしびれ、動かしにくさ、不随意運動について>

- ワクチンを受けた方に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと）などを中心とする多様な症状が起きたことが報告されています。
- ワクチンを受けていなくても、こうした症状のある方もいることが分かっています。

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

➡ 接種を行った医師・かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関
※協力医療機関の受診については、接種を行った医師又はかかりつけの医師にご相談ください

不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき

➡ お住まいの都道府県に設置された相談窓口

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

➡ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

予防接種による健康被害救済に関する相談

➡ お住まいの市町村の予防接種担当部門

厚生労働省のホームページでは、HPVワクチンに関する情報をご案内しています。

厚労省 HPV



HPVワクチン接種完了報告書（兼口座振込依頼書）

年 月 日

藤 沢 市 長

医療機関 所在地 _____

名 称 _____

氏 名 _____

____月実施したHPVワクチン接種について、次のとおり報告します。

区 分	9価ワクチン			件数	単価	金額
	1回目	2回目	3回目			
小学校6年生				件	円	円
中学校1年生				件	円	円
中学校2年生				件	円	円
中学校3年生				件	円	円
高校1年生				件	円	円
予診のみ				件	円	円
小計				件		円

上記についての接種委託料は、次のとおり振り込んでください。

※市に登録している「債権者コード」がある場合は、右にコード番号を記載。

債権者コード
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

※「債権者コード」がない場合は、次の欄に記載してください。

振 込 先	銀行 信用金庫 農業協同組合									支店	
	種目	普通 当座	口座番号	※右ツメ で記載
口 座 名 義	フリガナ										

※提出期限は、毎月10日(当日が土日祝日の場合は前開庁日)必着です。

※債権者の通帳には、「フジサワシ」（カナ表記）と印字され振り込まれます。市から同一日に他の振込みがある場合には合算して振り込まれます。

- ①、②…被接種者が16歳未満で保護者が同伴しない場合に保護者が事前に記入してください。
 ③…保護者同伴(または被接種者が満16歳以上)の場合に医師の説明を受けた後に記入してください。

① 予防接種を受けるに当たっての説明書を読み、予防接種の効果や目的、重篤な副反応発症の可能性及び予防接種救済制度などについて理解したうえで、子供に接種させることに同意します。
 なお、本説明書は、保護者の方に予防接種に対する理解を深める目的のために作成されたことを理解の上、本様式が市に提出されることに同意します。

保護者自署
(※被接種者が16歳未満で保護者同伴なし) **藤沢 花子**

被接種者が16歳未満で保護者同伴でない場合、事前に自署をもらってください。

HPVワクチン接種予診票

回数 **1回目** ・ 2回目 ・ 3回目 ・ 予診のみ

診察前の体温 **36** 度 **0** 分

住所	藤沢市朝日町1番地の1	電話	0466-25-1111
フリガナ	フジサワ ユメコ	生年月日	平成●●年 1 月 1 日 (満 15 歳 3 ヵ月)
受ける人の氏名	藤沢 夢子	小・中・高	年生(相当)
保護者の氏名	藤沢 花子		

質問事項	回答欄	医師記入欄
今日受ける予防接種についての説明書「HPVワクチンの接種を受けるに当たっての説明書」を読み、理解しましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	
今日体に具合の悪いところがありますか。 具体的な症状 ()	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
最近1ヵ月以内に病気にかかりましたか。 具体的な病状 ()	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
最近1ヵ月以内に予防接種を受けましたか。 予防接種名 ()	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
生まれてから今までに先天性異常、心臓・腎臓・肝臓・脳神経、免疫不全症、その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか。 また、その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいと言われましたか。 具体的な病名 ()	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
ひきつけ(けいれん)をおこしたことがありますか。()歳頃	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
そのときに熱は出ましたか。	はい <input type="radio"/> いいえ	
薬や食品で皮ふに発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことはありますか。 薬・食品・製品名 ()	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか。 予防接種名 ()	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
現在、妊娠している可能性(生理が遅れているなど)はありますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
現在、授乳をしていますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	
今日の予防接種について質問がありますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	

② あなたのお子さんに病歴・健康状況・接種当日の体調等を考慮した上で接種することに同意しますか (同意します ・ 同意しません) ※かっこ内のどちらかを○で囲んでください。
 この予診票は、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本予診票が市に提出されることに同意します。

(※被接種者が16歳未満で保護者同伴でない場合、事前に自署をもらってください。)

藤沢 花子

医師の記入欄
 以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は (実施できる ・ 見合わせたほうがよい) と判断します。
 保護者(接種を受ける者が既婚者の場合または保護者が同伴していない場合は本人)に対して、予防接種の効果、副反応及び予防接種健康被害救済制度について説明しました。

医師の署名または記名押印 **藤沢 一郎**

③ 医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や目的、重篤な副反応の可能性、予防接種健康被害救済制度などについて理解した上で接種することに (同意します ・ 同意しません) ※かっこ内のどちらかを○で囲んでください。
 この予診票は、当日、保護者が同伴された場合は保護者自署または被接種者が満16歳以上の場合は本人自署をもらってください。本予診票が市に提出されることに同意します。

保護者(接種者) **藤沢 花子**

ワクチンロット番号	接種部位	実施場所・医療機関名・医師名
<input type="checkbox"/> 2価 <input type="checkbox"/> 4価 <input checked="" type="checkbox"/> 9価 Lot No. ○○○○ <small>(注)有効期限がきれていないか要確認</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 上腕三角筋 ・ 大腿四頭筋 (<input checked="" type="checkbox"/> 右 ・ <input type="checkbox"/> 左) 実施年月日	実施場所 かわせみクリニック 医療機関名 医師名 藤沢 一郎
接種量 0.5ml	●●●●年 4 月 10 日	

HPVワクチン接種済証兼予診済証

藤沢市長 鈴木 恒夫

印影

回数 (1回目) ・ 2回目 ・ 3回目 ・ 予診のみ

		診察前の体温	36度 0分
住所	藤沢市朝日町1番地の1	電話	0466-25-1111
フリガナ	フジサワ ユメコ	生年月日	平成●●年1月1日 (満15歳3ヵ月)
受ける人の氏名	藤沢 夢子		
保護者の氏名	藤沢 花子		

◆2回目または3回目の接種時にこの「HPVワクチン接種済証」を医療機関へお持ちください。

◆接種後の注意

- ①接種後に、重いアレルギー症状がおこることがあるので、接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも30分間は安静にしてください。
- ②接種後は、接種部位を軽くおさえ、揉まないようにしてください。
- ③接種後は、接種部分を清潔に保ちましょう。
- ④接種後丸1日は、過度な運動を控えましょう。

HPVワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱や、局所反応(疼痛、発赤、腫脹)です。また、ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるイスに座るなどして様子を見るようにしてください。

まれに報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)等が報告されています。

副反応については、接種との因果関係を問わず、報告を集め、定期的に専門家が分析・評価をしています。

〈ワクチンごとの主な副反応〉

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス)	4価ワクチン(ガーダシル)	9価ワクチン(シルガード9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10~50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1~10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第2版)、シルガード9®添付文書(第1版)より改編 *接種した部位の症状

ワクチンロット番号	接種部位	実施場所・医療機関名・医師名
<input type="checkbox"/> 2価 <input type="checkbox"/> 4価 <input checked="" type="checkbox"/> 9価 Lot No. ○○○○○ (注)有効期限がきれていないか要確認 接種量 0.5ml	上腕三角筋・大腿四頭筋 (右・左) 実施年月日 ●●●●年4月10日	実施場所 かわせみクリニック 医療機関名 藤沢 一郎 医師名

③被接種者用

- ①、②…被接種者が16歳未満で保護者が同伴しない場合に保護者が事前に記入して 予診のみの場合
 ③…保護者同伴(または被接種者が満16歳以上)の場合に医師の説明を受けた後に記入してください。

① 予防接種を受けるに当たっての説明書を読み、予防接種の効果や目的、重篤な副反応発症の可能性及び予防接種救済制度などについて理解したうえで、子供に接種させることに同意します。
 なお、本説明書は、保護者の方に予防接種に対する理解を深める目的のために作成されたことを理解の上、本様式が市に提出されることに同意します。

保護者自署 (※被接種者が16歳未満で保護者同伴なし) **藤沢 花子** 住 所 **藤沢市朝日町1番地の1**
 緊急の連絡先 **0466-25-1111**

HPVワクチン接種予診票

回数	1回目 ・ 2回目 ・ 3回目 ・ 予診のみ
診察前の体温	36 度 0 分
住 所	藤沢市朝日町1番地の1
フリガナ	フジサワ ユメコ
受ける人の氏名	藤沢 夢子
保護者の氏名	藤沢 花子
電話	0466-25-1111
生年月日	平成 ●● 年 1月 1日 (満 15 歳 3 カ月) 小・中・高 年生(相当)

質 問 事 項	回 答 欄		医師記入欄
今日受ける予防接種についての説明書「HPVワクチンの接種を受けるに当たっての説明書」を読み、理解しましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	
今日体に具合の悪いところがありますか。 具体的な症状 ()	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
最近1か月以内に病気にかかりましたか。 具体的な病状 ()	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
最近1か月以内に予防接種を受けましたか。 予防接種名 ()	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
生まれてから今までに先天性異常、心臓・腎臓・肝臓・脳神経、免疫不全症、その他の病気にかかり、医師の診察を受けていますか。 また、その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいと言われましたか。 具体的な病名 ()	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
ひきつけ(けいれん)をおこしたことがありますか。()歳頃	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
そのときに熱は出ましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ	
薬や食品で皮ふに発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことはありますか。 薬・食品・製品名()	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか。 予防接種名 ()	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか。	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
現在、妊娠している可能性(生理が遅れているなど)はありますか。	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
現在、授乳をしていますか。	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	
今日の予防接種について質問がありますか。	<input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ	

② あなたのお子さんに病歴・健康状況・接種当日の体調等を考慮した上で接種することに同意しますか (同意します ・ 同意しません) ※かつこのどちらかを○で囲ってください。
 この予診票は、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本予診票が市に提出されることに同意します。

(※被接種者が16歳未満で保護者同伴なし) 保護者自署 **藤沢 花子**

医師の記入欄
 以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は (実施できる 見合わせたほうがよい) と判断します。
 保護者(接種を受ける者が既婚者の場合または保護者が同伴していない場合は本人)に対して、予防接種の効果、副反応及び予防接種健康被害救済制度について説明しました。

医師の署名または記名押印 **藤沢 一郎**

③ 医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や目的、重篤な副反応の可能性、予防接種健康被害救済制度などについて理解した上で接種することに (同意します ・ 同意しません) ※かつこのどちらかを○で囲ってください。
 この予診票は、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本予診票が市に提出されることに同意します。

保護者(接種を受ける方が満16歳以上の場合は本人)自署

ワクチンロット番号	接種部位	予診日を記入してください。	実施場所・医療機関名・医師名
<input type="checkbox"/> 2価 <input type="checkbox"/> 4価 <input checked="" type="checkbox"/> 9価 Lot No. ○○○○○ (注)有効期限がきれていないか要確認	上腕三角筋・大腿 (右・左)		かわせみクリニック
接種量 0.5ml	実施年月日	医療機関名	医師名
	●●●●年 4月 10日	藤沢 一郎	藤沢 一郎

HPVワクチン接種済証兼予診済証

予診のみのため
線を引いて渡してください。

印影

回数 1回目・2回目・3回目 **予診のみ**

		診察前の体温	36度 0分
住所	藤沢市朝日町1番地の1	電話	0466-25-1111
フリガナ	フジサワ ユメコ	生年月日	平成●●年1月1日 (満15歳3ヵ月)
受ける人の氏名	藤沢 夢子		
保護者の氏名	藤沢 花子		

◆2回目または3回目の接種時にこの「HPVワクチン接種済証」を
医療機関へお持ちください。

◆接種後の注意

- ①接種後に、重いアレルギー症状がおこることがあるので、接種後はすぐに帰宅せず、少なくとも30分間は安静にしてください。
- ②接種後は、接種部位を軽くおさえ、揉まないようにしてください。
- ③接種後は、接種部分を清潔に保ちましょう。
- ④接種後丸1日は、過度な運動を控えましょう。
- ⑤接種当日の入浴は問題ありません。

HPVワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱や、局所反応(疼痛、発赤、腫脹)です。また、ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるイスに座るなどして様子を見るようにしてください。

まれに報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)等が報告されています。

副反応については、接種との因果関係を問わず、報告を集め、定期的に専門家が分析・評価をしています。

〈ワクチンごとの主な副反応〉

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス)	4価ワクチン(ガーダシル)	9価ワクチン(シルガード9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10~50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1~10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第2版)、シルガード9®添付文書(第1版)より改編 *接種した部位の症状

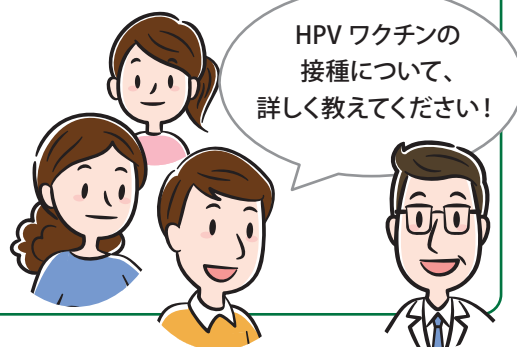
ワクチンロット番号	接種部位	実施場所・医療機関名・医師名
<input type="checkbox"/> 2価 <input type="checkbox"/> 4価 <input checked="" type="checkbox"/> 9価 Lot No. ○○○○ (注)有効期限がきれていないか要確認	上腕三角筋・大腿四頭筋 (右・左)	実施場所 かわせみクリニック
接種量 0.5ml	実施年月日 ●●●●年 4月 10日	医療機関名 藤沢 一郎
		医師名

③被接種者用

■ HPV ワクチンは、平成 22 (2010) 年 11 月から子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業として接種が行われ、平成 25 (2013) 年 4 月に予防接種法に基づく定期接種に位置づけられました。平成 25 (2013) 年 6 月から、積極的な勧奨（個別に接種を勧める内容の文書をお送りすること）を一時的に差し控えていましたが、令和 3 (2021) 年 11 月に、専門家の評価により「HPV ワクチンの積極的勧奨を差し控えている状態を終了させることが妥当」とされ、令和 4 年 4 月から、他の定期接種と同様に、個別の勧奨を行っております。

■ HPV ワクチンに関する知識がない方、接種すべきか判断できずに困っている方、接種に不安を抱いている方などが多くおられます。そのような方々に、適切な情報提供をお願いしたいと考えています。

■ ワクチンの接種に当たっては、被接種者・保護者に HPV ワクチンの有効性・安全性に関する十分な情報提供・コミュニケーションをはかった上で実施してください。なお、その場合は被接種者とその保護者の不安にも十分ご配慮ください。



1 ヒトパピローマウイルス (HPV) と子宮頸がん

- 子宮頸がんについては、HPVが持続的に感染することで、異形成を生じた後、浸潤がんに至ることが明らかになっています。HPVに感染した個人に着目した場合、多くの感染者で数年以内にウイルスが消失しますが、そのうち数%は持続感染→前がん病変(高度異形成、上皮内がん)のプロセスに移行し、さらにその一部は浸潤がんに至ります。
- 性交経験のある人の多くは、HPVに一生に1度は感染すると言われています。日本においては、ほぼ100%の子宮頸がんでは高リスク型HPVが検出され、その中でもHPV16/18型が50～70%、HPV31/33/45/52/58型を含めると80～90%を占めます。
- 日本では、子宮頸がんの罹患者は年間約1万人、それによる死亡者は約3,000人になるなど、重大な疾患となっています。子宮頸がん年齢階級別罹患率は20代から上昇し、40代でピークを迎えます。
- 子宮頸がん自体は、早期に発見されれば予後の悪いがんではありませんが、妊孕性を失う手術や放射線治療を要する20代・30代の方が、年間約1,000人います。また、前がん病変に対して行われた円錐切除術の件数は年間1.3万件を超えています。円錐切除術後は、流産のリスクが高まると言われています。

2 HPVワクチンの効果(有効性) 詳しくはこちらへ

<https://www.mhlw.go.jp/content/000892337.pdf>



- HPVワクチンは2006年に欧米で使われ始めた比較的新しいワクチンであり、海外や日本で行われた疫学調査では、HPVワクチンを導入することにより、子宮頸がんの前がん病変(がんになる手前の状態)を予防する効果が示されています。また、接種が進んでいる一部の国では、子宮頸がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。
- 公費で接種できるHPVワクチンは3種類あります。
 - 2価HPVワクチン(サーバリックス®)

HPV16/18型の感染とそれによる子宮頸部異形成を予防する効果が示されています。
 - 4価HPVワクチン(ガーダシル®)

HPV16/18型の感染とそれによる子宮頸部異形成を予防するとともに、HPV6/11型の感染とそれによる尖圭コンジローマも予防することが示されています。
 - 9価HPVワクチン(シルガード®9) ※令和5(2023)年4月から、9価HPVワクチンも公費で接種できるようになりました。

HPV16/18/31/33/45/52/58型の感染とそれによる子宮頸部異形成を予防するとともに、HPV6/11型の感染とそれによる尖圭コンジローマも予防することが示されています。
- HPVワクチン接種により自然感染で獲得する数倍量の抗体を、少なくとも12年維持することが海外の臨床試験により明らかになっています。
- HPVワクチン接種で予防されない型のHPVによる子宮頸がんも一部存在します。HPVワクチンの接種歴にかかわらず、子宮頸がん検診を定期的に受けるよう、説明・助言してください。

3 HPVワクチンのリスク(安全性) 詳しくはこちらへ <https://www.mhlw.go.jp/content/000892337.pdf>



- 一定の頻度で発生する副反応については、ワクチンの添付文書をご参照ください。
- 定期接種対象の3種類のワクチンの接種後の症状として頻度の高いものは、接種部位の疼痛、発赤(紅斑)、腫脹です。

発生頻度	サーバリックス®(2価HPVワクチン)	ガーダシル®(4価HPVワクチン)	シルガード®9(9価HPVワクチン)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10～50%未満	掻痒、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛等	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1～10%未満	蕁麻疹、めまい、発熱等	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*等
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感等	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*等
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症等	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労等	感覚鈍麻、失神、四肢痛等

サーバリックス®添付文書(第1版)、ガーダシル®添付文書(第3版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状

- 頻度は低いですが、重篤な副反応も報告されています。
アナフィラキシー(蕁麻疹、呼吸器症状などを呈する重いアレルギー)、
ギラン・バレー症候群(脱力などを呈する末梢神経の疾患)、
急性散在性脳脊髄炎(頭痛、嘔吐、意識障害などを呈する中枢神経の疾患)など

■ 疼痛または運動障害などの報告について

- HPVワクチン接種直後から、あるいは遅れて、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動などを中心とする多様な症状が現れたことが副反応疑い報告により報告されています。
- この症状のメカニズムとして、①神経学的疾患、②中毒、③免疫反応、④機能的な身体症状(下記「機能的な身体症状とは」参照)が考えられましたが、①②③では説明できず、④機能的な身体症状であると考えられています。
- 「HPVワクチン接種後の局所の疼痛や不安などが機能的な身体症状を惹起したきっかけになったことは否定できないが、接種後1か月以上経過してから発症している症例は、接種との因果関係を疑う根拠に乏しい」と評価されています。
- HPVワクチン接種歴のない方においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在したことが明らかとなっています。
- このような「多様な症状」の報告を受け、様々な調査研究が行われていますが、「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていません。

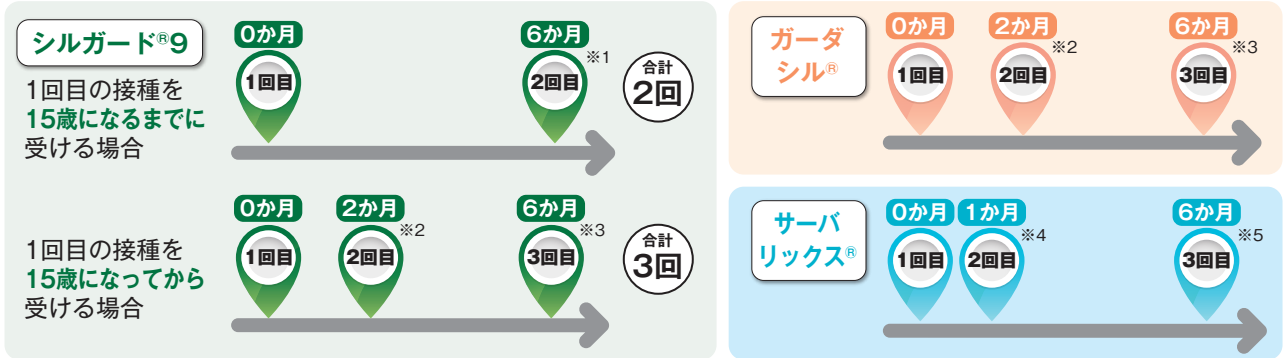
【機能的な身体症状とは】

- 何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その症状に合致する異常所見が見つからないことがあります。このような状態を、機能的な身体症状と呼んでいます。
- 症状としては、①知覚に関する症状(頭や腰、関節などの痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に対する過敏など)、②運動に関する症状(脱力、歩行困難、不随意運動など)、③自律神経などに関する症状(倦怠感、めまい、嘔気、睡眠障害、月経異常など)、④認知機能に関する症状(記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など)など多岐にわたります。
- 痛みについては、特定の部位からそれ以外の部位に広がることもあります。運動障害などについても診察所見と実際の運動との乖離、症状の変動性、注意がそれた場合の所見の変化など、機能的に特有の所見が見られる場合があります。
- 臨床現場では、専門分野の違い、病態のとらえ方の違いあるいは主たる症状の違いなどにより、様々な傷病名で診療が行われています。また一般的に認められたものではありませんが、病因に関する仮説に基づいた新しい傷病名がつけられている場合もあります。
例：身体症状症、変換症/ 転換性障害(機能的な神経症状症)、線維筋痛症、慢性疲労症候群、起立性調節障害、複合性局所疼痛症候群(complex regional pain syndrome: CRPS)

4 HPVワクチンの接種

- 定期接種対象者 小学校6年～高校1年相当の女子
- 定期接種対象ワクチン 2価(サーバリックス®)、4価(ガーダシル®)、9価(シルガード®9)

一般的な接種スケジュール



3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

※4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上(※5)あけます。

接種時の注意点

- 痛みなどの頻度が高いワクチンであることを被接種者と保護者に伝えてください。
- 接種の痛みや緊張のために、血管迷走神経反射が出現し、失神することがあります。接種後は少なくとも30分間は背もたれのある椅子に座っていただき、座位で様子を見てください。前に倒れる場合がありますので、注意して様子を観察してください。

接種を判断する際のポイント

- ワクチンを接種した後や、けがの後などに原因不明の痛みが続いたことがある方は「機能的な身体症状」が出現する可能性が高いと考えられているため、被接種者と保護者に十分確認してください。
- 接種後に現れた症状により、以降の接種を中止もしくは延期することが可能です。2回目以降の接種時には、前回接種後の症状の有無を被接種者と保護者に確認してください。

2価・4価HPVワクチンと9価HPVワクチンとの交接種について

- HPVワクチンの接種は、原則、同じ種類のワクチンで実施します。しかしながら、2価または4価HPVワクチンで規定の回数の一部を完了し、9価HPVワクチンで残りの回数の接種を行う交接種についても、実施して差し支えないこととしています。
- 世界保健機関(WHO)や諸外国の保健機関においても、基本的には同じ種類のワクチンでの接種が推奨されています。しかしながら、やむを得ない場合には、交接種も許容されています。また、現時点において、交接種における免疫原性や安全性に関する懸念は報告されていません。
- 接種にあたっては、被接種者と保護者に対し、十分な説明を行った上で実施してください。
- なお、2価または4価HPVワクチンで接種を開始し、定期接種として9価HPVワクチンで接種を完了する場合は、9価HPVワクチンの接種方法に合わせ、1回目と2回目の間隔を1か月以上、2回目と3回目の間隔を3か月以上空けて接種します。また、キャッチアップ接種の対象者についても、交接種を実施して差し支えありません。

参考資料はこちら

<https://www.mhlw.go.jp/content/000892337.pdf>



5 接種後に体調の変化などを訴える方が受診した場合の対応

- ワクチン接種直後から、あるいは遅れて接種部位や接種部位と異なる部位の持続的な痛み、倦怠感、運動障害、記憶など認知機能の異常、その他の体調の変化などを訴える患者が受診した場合には、**HPVワクチン接種との関連を疑い症状を訴える患者が存在することを念頭に置き、傾聴の態度(受容、共感)を持って接し、共感を表明しつつ、診療にあたってください。**
- 患者が落ち着いて診療を受けられるよう、また治療方針が首尾一貫するように取りはからいつつ、自分が主治医として診療するか、協力医療機関、専門医療機関の医師に紹介するかを検討してください。**患者の行き場が無くなる状況とならないように、紹介する際も、主治医が決定するまでは責任を持ってご自身で診療にあたってください。**
- 副反応疑い報告を行うか検討してください。(参照) 日本医師会・日本医学会発刊「HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」
www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/dl/yobou150819-2.pdf
- HPVワクチン接種後に生じた症状について、患者により身近な地域で適切な診療を提供するため、各都道府県において協力医療機関が選定されています。

HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/medical_institution/index.html



被接種者が接種後に生じた症状で困ったときの相談窓口(都道府県ごとに設置)

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/madoguchi/index.html>



Q&A

Q：副反応疑い報告って何ですか？

- A：**●ワクチン接種による副反応が疑われる症例については、ワクチン接種との因果関係を問わず、報告を集めています。詳しくは、厚生労働省ホームページ「予防接種法に基づく医師等の報告のお願い」をご参照ください。
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou20/hukuhannou_houkoku/index.html
- 令和6(2024)年9月末までに報告^{※1}されたHPVワクチンの副反応疑いの総報告数は、サーバリックス[®]およびガーダシル[®]で3,741人(1万人あたり約9人^{※2})で、シルガード^{®9}で515人(1万人あたり約3人^{※3})です。うち医師または企業が重篤と判断した報告数は、サーバリックス[®]およびガーダシル[®]で2,186人(1万人あたり約5人^{※2})で、シルガード^{®9}で299人(1万人あたり約2人^{※3})です^{※4}。
 - 接種との因果関係を問わず、接種後に起こった健康状態の異常について副反応疑いとして報告された症例については、厚生労働省の審議会において、報告頻度や症例の概要などを確認し、安全性に係る定期的な評価を継続的に実施しています^{※5}。

※1 企業報告は販売開始から、医療機関報告は平成22(2010)年11月26日からの報告

※2 出荷数量より推計した接種者数422万人(サーバリックス[®]242万人、ガーダシル[®]180万人)を分母として1万人あたりの頻度を算出

※3 出荷数量より推計した接種者数172.2万人を分母として1万人あたりの頻度を算出

※4 ワクチン接種に伴って一般的に起こりうる過敏症など機能性身体症状以外の認定者も含んだ人数

※5 審議会における議論の詳細については https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284075.html に掲載

Q：予防接種健康被害救済制度って何ですか？

- A：**●予防接種の副反応による健康被害は、極めて稀ですが、不可避免的に生じるものですので、接種に係る過失の有無にかかわらず、予防接種と健康被害との因果関係が認定された方を迅速に救済する制度を設けています。詳しくは厚生労働省ホームページ「予防接種健康被害救済制度について」をご参照ください。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_kenkouhigaikyusai.html
- 日本の従来からの救済制度の基本的な考え方「厳密な医学的な因果関係までは必要とせず、接種後の症状が予防接種によって起こることを否定できない場合も救済の対象とする」に沿って、救済の審査を実施しています。
 - 令和6(2024)年3月末までにHPVワクチン接種との因果関係が否定できないとして救済制度の対象となった方は、審査された613人中、366人です。(予防接種法に基づく救済の対象者が、審査した計73人中、45人、PMDA法に基づく救済の対象者が、審査した計540人中、321人となっています。)

お役立ち資料集

厚生労働省「ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がんとHPVワクチン～」

HPV ワクチンに関する情報を一元的にお知らせしています。
www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html



厚生労働省「予防接種・ワクチン情報」

HPV ワクチンを含む、予防接種法に基づいて行われる各ワクチンの定期接種に関する情報をお知らせしています。
www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/index.html



厚生労働省「厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会」

HPV ワクチンを含む各ワクチンの安全性の評価などを定期的に行っている審議会です。
www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284075.html



筋肉内注射の注意とポイント(動画)

HPV ワクチンと同じく筋肉内注射である、新型コロナワクチン接種を安全に行うためのポイントを説明しています。
(厚生労働行政推進調査事業費補助金「新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業」「ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究」)
www.youtube.com/watch?v=rcEVMi20tCY



接種対象者とその保護者向けのリーフレットを
厚生労働省ホームページからダウンロードしてお使いいただけます。

厚労省 HPV 検索

